

議 事 録

件 名	令和7年度 第2回 久留米市男女平等推進センター運営委員会
日 時	令和7年12月17日(水) 14:00~15:50
場 所	えーるピア久留米 男女平等推進センター 210・211研修室
出席者	委員 永松委員、平田委員、堀田委員、新開委員、江藤委員、松本委員、檜原委員、井上委員、笠委員、伊崎委員
	事務局 神代、大場、菅山、渡邊(男女平等推進センター)
	ワザパー 水落担当部長、森山次長
欠席委員	末崎委員、池田委員、酒井委員
傍聴者	0名
配布資料	① 次第 ② 委員長および副委員長の選出について ③ 【議事(1)】令和7年度 事業の実施状況 ④ 【議事(1)】令和7年度 施設の利用状況(10月末現在) ⑤ 【議事(2)】久留米女性週間記念事業くるめフォーラム2025について ⑥ (参考) ジャーナル特別号「くるめフォーラム特集」 ⑦ (参考) 第13期 久留米市男女平等推進センター運営委員会 委員名簿
議 事 内 容	
1 開会	
2 議事	(1) 令和7年度事業実施状況について ①事業の実施状況 ②施設の利用状況(10月末現在) (2) 久留米女性週間記念事業くるめフォーラム2025について
3 その他	
4 閉会	
議 事 内 容	

【質疑応答・要望】

(1) 令和7年度事業実施状況

①事業の実施状況について

- (委員) 1点目は、学生への啓発講座で、どのような啓発を行ったのか教えてほしい。
2点目に、市民グループ公募企画支援に当日参加して内容は理解したが、男女平等の視点からは遠く、女性差別の視点がセンターで行う事業としては少し欠けていたのではないかなと思うがいかがか。
3点目に、庁内相談関係ネットワーク会議に健康福祉部が入っているのかお尋ねする。
- (委員) 講義を受けた大学からお話しさせていただきたい。4月に、アンコンシャスバイアスと

は何か、様々な事例を解き明かすワーク形式で、ジェンダーかるたを作る前に学生に知ってほしいことについて話をしていただいた。

2回目の授業では、ジェンダーについての理解をさらに深めてもらえるような講義をしていただき、学生たちには気づきにつながったと好評だった。

(事務局) センターでは、学生の男女平等に関する理解促進を図る目的で、アウトリーチ型で学校に出向き、センター職員から男女平等の啓発に関する講義を行っている。

今回、大学との連携事業でジェンダーかるたの制作に合わせて、アンコンシャスバイアスについて正しく理解してもらえるような内容とした。

(委員) 昨日の国会では、参政党の神谷代表の質問の中で、このアンコンシャスバイアスが入っていたと思う。それは、内閣府が行った調査におけるアンコンシャスバイアスへの誤った解釈からきているようだ。東京医科大学の入学試験で女性差別があったのも、アンコンシャスバイアスによって引き起こされた偏見であり、こうした歪みを解消していかなければならない。それは行政が率先してやっていく必要があり、ただ単に、これを思い込みということにしておく、個人の問題になってしまう。

(事務局) 市民グループ公募企画については、申請団体と打ち合わせを重ねる中で、障害を持つ人の中でも男性はなかなか関わってくれないこと、学校や教育でも支えてほしいという意見を聞いた。そして、当日は、講師から男性がもっと関わるべきとの強烈なお話もあり、市役所の中でセンターはジェンダー平等の横串を通してのことからも開催してよかったと思っている。

(事務局) 相談ネットワーク会議には、相談関係機関ネットワーク会議と庁内相談ネットワーク会議がある。相談ネットワーク会議は国、県、外部の関係団体で構成しており、庁内相談ネットワーク会議には健康福祉部の課が入っている。

(委員) 市民グループ公募企画支援については、センターが男女平等を推進していくための拠点施設であるということ十分に考えていただき、しっかり行ってほしい。

また、庁内相談ネットワーク会議に健康福祉部が入っているか質問をしたのは、この場と直接は関係ないが、現在、第2期くるめ支え合うプランのパブリックコメントが募集中であるが、その最後の相談窓口一覧に女性の相談窓口が載っていない。健康福祉部が庁内相談ネットワークに入っているとすれば、当然載せるべきではないかと思う。

(事務局) ご意見があった支え合うプランについては、この後確認させていただきたい。

(委員) 私は、初めて委員になって、8月26日に第1回運営委員会に出席させていただいたが、センターの取り組みの多さにびっくりした。本日、2回目の会議でも、またもや取り組みの多さと、活躍の場面が感じられて感心している。

前回の会議の中で、「不易流行」という意見が出たが、この運営委員会は、「こうしたら、もう少し良くなる」とか、「こういうふうにやってみましょう」といった意見をみんなで出し合いながら考えていくものと思っているため、一步一步進んでいきたい。

(事務局) この運営委員会は、各方面でご活躍される方々に委員として集まっていただきご意見をいただき、大変貴重な場である。限られた時間ではあるが、忌憚のない意見をいただき、よりよいセンター運営につなげていけるように、引き続きご協力をお願いしたい。

(副委員長) 今、事業の実施報告や進捗状況の説明を聞いて、センターの講座や事業は、いろんな困りごとや課題などを解決する手段であり、そのきっかけとなるような形になっているというのが率直な感想である。

例えば、縦軸に、小学生、中学生、高校生、大人といった対象者がいて、横軸に、DVなどの様々な課題やテーマがある。この縦と横のつながりは、長年、センターが男女平等の視点でやってきたことで成り立っているもので、ますます広がるものと思っている。

事業については、「もう少しこうした方が良いのではないか」という点もあると思うが、その前提には、今まで培ってきた縦と横の部分のつながりがあるゆえの意見ができるのではないか。

商工会議所が連携・協力している事業の中で、特に2つの事業について、意見を述べたい。次世代の男女共同参画促進講座「学生と社会人のワールドカフェ」については、もう10数年続いており、自分も社会人で参加している。この事業は、「働くこと、生きるこ

と」を大きなテーマに、学生たちはワールドカフェで社会人から意見を聞きながら、これからの自分について考える機会となる有意義なものである。当時出会った学生から連絡をいただくこともあり、1つ1つの事業がつながり、今、生きているのだと思う。

また、女性の起業応援セミナーも10年以上続いており、商工会議所も協力している。受講する人の理由や状況はさまざまだが、この事業にはすごい強みがある。産業競争力強化法に基づく特定創業支援事業で国から認められた事業ということで、久留米市の新規開業資金を申し込むことが出来るようになる。

新規開業資金というのは産業競争力強化法に基づく特定創業支援事業というのが条件の一つであるため、講師やセンターがしっかりと計画を練って実施していることで特定支援事業として認められている。

商工会議所で年に3回の創業塾を男性女性に関係なく行っているが、参加は平均で25人くらいであり、センターの事業が非常に良い。どんどんバージョンアップしている。

(委員) 男女共同参画のまちづくり講座で、専門講師を派遣と説明があったが、講師について教えてほしい。

また、DV・性暴力被害者支援サポーター養成講座は全部で19回もある。

久留米市のDV対策は民間と連携するなど有名であるが、これに比べると男女平等問題の講座は、非常に少ない。DV講座では、その背景にあるジェンダーを知る基礎編から応用編までであるのに、男女平等問題の基礎講座はテーマごとと言うが少ないと思う。

センターは男女平等を推進する拠点施設という点で、基礎的な講座をシリーズで毎年行ってもらいたい。自前で行うことが難しいならば、委託や調査研究事業で専門家の知恵を借りるなど、ぜひ検討してもらいたい。

センターは男女平等施策の拠点施設として、全部局は、総合行政の横串を担う必要があるため、センターで事業を展開するように働きかけるのも役割だと思う。条例にも拠点施設として明記されているように、先ほどの発達障害の子どもへの具体的支援についての講座は、すばらしい内容だと思ったが、障害者福祉課や地域福祉課が来るように働きかけて巻き込んでいくこともセンターの役割と思うがいかがか。

(事務局) 男女共同参画のまちづくり講座の講師は、NPO法人福岡ジェンダー研究所にお願いして、校区への具体的なアドバイスをいただいている。

また、男女平等に関する講座については、もう少し基礎的な部分を、体系的にやってほしいということだと思うが、今は、基礎的な部分も含めてテーマ別に行っている。

講師とは十分に打ち合わせを行う中で、ジェンダーに起因していることや、歴史的な背景などの基本的な部分については、センターとしても大変重要なことと認識しているため、テーマに触れながらも決して外すことがないようにしている。

(委員) やはり先ほどの課題はセンターや政策課だけではなく、全庁的にやっていると進まないと思うので、よろしくお願ひしたい。

(委員) 他の委員のお話を聞いていると大変勉強になる。先ほどは、男女平等を推進するための拠点施設という話があったが、「男女の格差はどこからきたか」を考える時にはジェンダーが出てくる。「ジェンダーはなぜ生まれてきたか」、「性別役割意識はどこから生まれてきたか」を考えてみてはどうかと思う。

これらは、氷山の上の方に出てきている問題であって、日清戦争以降に作られた近代の価値観で、支配しようという意識から作られてきたのかと思う。

今後は、ジェンダーや性別役割分担意識がなぜ生まれるのかということも話していただくと参加しやすくなるのではないかとと思う。

(事務局) 日本においては、国際婦人年以降、男女共同参画社会基本法の制定までは、男女雇用機会均等法や、女性差別撤廃条約の批准など様々な取り組みがなされてきたにもかかわらず、賃金の男女間格差など女性への格差がある現状である。

来年度、センターは開館25周年を迎える節目に当たるため、しっかり基本的なことを皆さんに理解していただけるように、拠点施設であるセンターとして取り組んでいきたい。啓発パネル展示などにも力を入れて、視覚に訴えて理解していただくことや、動画などを使って伝えていきたい。

②施設の利用状況（10月末現在）について

- (委員) 貸室の状況で、登録団体の利用人数が増えたという説明があった。登録団体数が減ったのに、利用人数が増えた理由を教えてください。それに、主催講座は1,853人から1,392人に減っている。ZEB化工事の影響もあったと思うが、減っている理由も教えてください。
- (事務局) 登録団体の数は減少しているが、活動が活発になっている団体の利用が増えている。主催講座は、ZEB化工事のために実施時期を少し後ろ倒しにしたことも影響していると考えているため、下半期で積み増しができればと考えている。
- (委員) 自分は利用者連絡協議会の代表もしているが、利用団体の現状は、2～3人で活動していて、高齢化という状況で頑張っているという話をよく聞くため、活動が活発な団体はどのような団体なのか教えてください。
- (事務局) 以前からよく利用されている団体ではあるが、特に3つの団体が、定期的集まる回数や参加人数が増えている。
- (委員) 総合相談の年代別割合で、30代、40代、50代が多いという話があったが、子育てをしている女性からの相談についての内訳の数字はあるのか。
子どもさんがいる家庭では、どうしても逃げづらいとか、面前DVという形で虐待が大きかったりするので、そのあたりの数字があるなら知りたい。また、女性からの相談で、障害のある女性や外国人の女性からの相談件数の数字を取っているなら教えてください。
- (事務局) 総合相談についてのグラフであり、DVなどに限定したものではない。
2,410件の詳細については、8ページを見ていただきたい。2,410件の中には、子どもに関する相談内容も入っており、面前DVはDV相談の内訳になるが、総数980件の中に年齢別の数字は出していない。
確かに当センターでの相談では、ここ数年は50代が多いが、今回は30代が一番多くなっている。また、障害のある女性や外国人の女性からの相談は大体10件くらいである。
- (委員長) 今回は30代が一番多いということだったが、相談内容の傾向や中身が変わってきているのか。
- (事務局) やはり、家族の問題、夫婦の問題がとて多く、50代がここ数年中心だったが、若い方も増えているというのは、当センターの認知度が上がったということと、気軽に相談してみようかという方が増えているといった良い傾向だと思っている。

(2) 久留米女性週間記念事業くろめフォーラム2025について

- (委員) 今回、実行委員会の2回目か3回目ぐらいから、不満の声を聞いてきた。配布されたこのパンフレットに掲載していることと違うやり方になったことが問題である。
記念講演では、講演の後にインタビューとなっていたのに、最後までインタビューになったことを、実行委員さんにご存じではなかった。これは大きな違いである。
当日の配信会場の案内では、先着順・自由席と書いているが、説明があったように、急遽整理券を出すようになった。ホームページで周知したと言われたが、パンフレットは結構いろいろな所に配布・設置されており、実際、ホームページを見る人はいない。
パンフレットに案内しているとおりにやっていくのが本筋である。例えば、以前、台風の時に行政の主導で決定したこともあるが、それは行政が主導すること。しかし、その他の事項は協議をしながらやっていく必要がある。それが、今回はずいぶん変えていかれた。
そして、インタビュアーについても、話しの筋を追って流れを作った質問ではなく、1つ1つの質問は良かったが、講演の流れにはなっていなかったという声を聞いた。
また、久留米市のフォーラムはとて面白いと、男女平等を推進する行政や活動されている方々が来ていただいているが、その方々から、「今回の講演は本当につまらなかった。参考にならなかった。」と言われた。
講演に関しては、講師が途中からステージに子どもさんを連れて入ってこられたため、落ち着いて聞くことが出来なかったという声を聞いた。中にはとて良かったというアン

ケートもを見せていただいたが、「子どもを抱っこしてからの話は受け入れがたい」、「子どもを連れてこざるを得ないとしても、見る人がいるだろう。」という意見もあったと聞く。

やはり、子どもは外でおばあちゃんと一緒に過ごすべきだった。Wi-Fiが使えなかったからゲームが出来なかったという話も聞いた。それならWi-Fiが使えるところに連れていくべきだったと思う。参加者は、子どもを預けているのに、講演をされる講師は子どもを抱っこしながらの講演は腑に落ちない。

また、予算や決算の大幅な変更があったことはいかがと思う。最初に30分しか講演できないと言われたのなら、その時点で講師は変えるべきではなかったか。最終的に、交通費を追加して、インタビュアーを追加したことで、30万円の予算が44万円になった。そんなに増やせるのなら自分たちのところも増やしてほしいという意見も実行委員から聞いた。

今回のフォーラムのあり方については、しっかりと総括して、来年度はそういったことが起きないように、やってほしい。今までもたくさんの参加者がいても実行委員やセンター職員が必死になってその整理をしてきた。パンフレットのとおりにやってほしい。

(事務局) 冒頭に言ったように、今回のフォーラムの実施に当たっては、たくさん変更点とかについて、実行委員と連携がとれていなかったことについて反省している。

また、ホームページにあげるだけでは足りないということについては、市の公共施設や関係施設のパンフレット配布先には、パンフレットの横に追加でお知らせ文を貼って周知していただくようお願いしたが、十分な対応とはなっていないのはご指摘のとおりである。今後は、このようなことがないように、しっかり、十分に事前に検討し、進めていきたい。

講演についても、当初から講演ということで話を進めていたが、フォーラムが市の大変重要な位置づけの行事であることを説明していく中で、講演の中でご自身の発言によって迷惑がかかることになっては申し訳ないとのことで、マネージャーさんよりインタビュー形式でお願いしたいとのことで、打ち合わせを進めていく中での突然の申し出によって、実行委員への報告や共有が遅くなってしまったことについては反省している。今後はこのようなことがないように、事前に次の手を考えて進めていきたい。

(委員) 講演についての意見は、先ほど委員に全部言っていた。

先ほどのアンケート内容は私のことかもしれないが、どうしても講演の時に子連れを許可したのか理解できない。参加者は子どもを2時間預けるのが当たり前なのに、プロはお金を払ってきているのに、講師の考えが理解できない。

それに、講演の深まりがなかったと思う。最初は、久留米のお酒の話があって、いつから肝心な話になるのかわからず、看板に偽りありと思った。

良かった点として、市民企画で久留米高専の先生や生徒さんと市の防災対策課が連携した企画があったことで、一体となった取組が広がっていると感じることができた。また、市の10課が展示されたこともよかったのだが、講演が残念だった。

(委員長) 講演では、会場の皆さんに司会者から「子どもさんをステージに上げていいですか。」と聞かれたと聞いた。会場の皆さんからは、たくさんの拍手があって、子どもさんがステージに上がった。子どもさんが上がったことで、会場が和やかな雰囲気になったと聞いた。今回は、悪いのか良いのか分からないが、そのような状況の中での事務局の対応はやはり大事なことだと思う。

(委員) 自分は3階で聞いていた。

(委員長) 私は会場にいなかったが、参加した方から聞いたので、この場で言わせていただいた。

(3) その他

(事務局) 第1回運営委員会において、センターにおける課題と今後の対応については、前年度の第3回運営委員会での意見を踏まえて、内部で事業のあり方の検討や、管理運営上の実態の詳細な把握とか分析を進めている状況について前回の委員会で報告をさせていただいた。

現在は、登録団体と意見交換を行っている状況であることを報告させていただきたい。

(委員) ジェンダーかるたについては、先ほども触れたが、来年1月に公開形式で新春かるた会

を開催する予定にしているので、興味がある方はぜひお越しいただきたい。
久留米市で作られたかるたの展示パネルを見られた八女市や筑後市に加えて、福岡県の担当者も当日は来られることになっている。きれいに展示していただいたことで、じわじわと近隣の自治体に広がっている状況である。

(委員長) 出来上がったかるたは貸し出しができるのか。

(事務局) 来年1月中旬にジェンダーかるたが出来上がるため、来年度の出前講座では、かるたを活用してジェンダー平等を考えようというメニューをつけ加えるようにしている。

いろいろな場面で使っていただけるように、貸し出しができるように準備していく。

また、久留米大学とは引き続き連携を強化していきたいと思っている。

(委員長) 校区のまちづくり振興会で活用を検討してはいかがかと思う。

(委員) 校区でもぜひ検討したいと思う。

【質疑修了】